



十一面観世音菩薩坐像 本絹点描画 浄泉寺蔵



Soto-Zen Jyousenji

浄泉寺報

第10号

今年の梅雨は、どうも「からつゆ」らしく、気象庁の梅雨入り宣言があつても雨の降らない日が続きました。近年の異常気象は、環境破壊を続けてきたのが原因だとする説もあります。文明の発達や経済成長と地球環境維持とは、対立しなければならぬものではないでしょうか。私も、地球環境の保全にも曹洞宗

は力を注いでおります。皆様とともに次の世代により良い環境を引き継げるよう努力してまいります。さて、もう間もなく夏になります。檀信徒の皆様には、ご健勝のことと拝察しお慶び申し上げます。また日頃より浄泉寺護持のためご尽力頂いておりますこと、深く御礼申し上げます。

さて今年も半年が過ぎ浄泉寺では例年通りの行事を開催してきました。大きな行事は、去る四月七日(日)に開催しました浄泉寺恒例の「花まつり」ですが、今年は、尺八と詩吟のイベントを催しました。主に町内の方々にご参加いただいた関係から、本堂に入りきれないほどのご参加を頂きました。月例行事の御詠歌講も徐々に講員を増やし充実してきました。また写経会も大分参加者が増えております。更に坐禅会も参加者は多くはありますが休むことなく続いております。これらの行事は

寺と皆様方との絆を深めるものとして開催しておりますので、是非見学からでもご参加ください。次に、今年のお盆の棚経ですが、成田市及び富里市方面の檀信徒数が近年増えておりまして、十四日の棚経が限界に近づいております。つきましては一日の棚経件数の平均化をはかるため、十三日と十四日の棚経でお伺いするご家庭の一部を変更させていただきます。該当するご家庭には七月中にハガキで変更のご通知を申し上げますので、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

また、今年の万燈会ですが、例年通り八月十五日の送り盆の夜、境内と墓地に沢山の蠟燭を灯し、檀信徒各家のご先祖様のご供養、あるいは無縁の精霊にご供養する法要と怪談話を得意とする落語家を招いて開催します。是非ご参加ください。(詳細は三ページ)
最後に檀信徒の皆様方のご健勝ご多幸を心よりご祈念申し上げます。ご挨拶と致します。

住職 合掌

当面の行事等

8月 11日(日) 新盆棚経

8月 13日~15日 棚経

8月 15日 万燈供養(演奏会)

午後6時~午後11時頃まで

(イベント午後7時から8時まで)

8月17日 施食会 午前9時から

9月20日~26日 秋彼岸会

10月19日(土) 観月会イベント

(別途ご案内申し上げます。)

お盆のおはなし

お盆というのは正しくは孟蘭盆といい、ウランバーナという梵語からきたものです。それが中国に入って、「救倒懸」と訳されました。倒懸とは地獄で逆さまにつるされている、はげしい苦しみを意味し、その苦しみを救いたすけるというのが「救倒懸」、すなわち孟蘭盆の行事です。また、孟蘭盆の盆には、器の意味があります。百味五果と称する種々の供物を盆器に盛り上げて、これを仏様や仏の御弟子に供養して、その功德を以て衆生倒懸の苦しみを救うという意味です。

お盆の因縁は、お釈迦様が御在世の時に遡り、十大弟子の中に神通第一の目連尊者という方がいました。ある時、神通力で大千世界の一切の境界を見渡すと、我が母が餓鬼道に堕ちて苦しんでいる様子がまざまざと見えましました。目連尊者には助ける術がなく、み仏のもとに至り、泣く泣くその救助の法を求めますと、釈尊の静かに仰せられるには、「目連よ、汝が母の

罪はあまりに重くて、諸天善神も除くことができない。今はただ十方の僧の力を借りるほかはない。七月十五日は、比丘比丘尼たちが集まって懺悔をする日だ。この時、百味の飲食を供え、各地の僧たちに施しなさい。僧たちはその供物を受けて、一心に汝の母を、苦しみから逃れさせるように祈るだろう」と。目連のお母さんはこのようにして、餓鬼道の苦を逃れることができ、これを因縁として孟蘭盆会の行事が始まったのです。

林間に囀る鳥、波間に遊ぶ魚も、私たち人間と、昔のいづれかの時において親子の因縁があった、と考えても不思議ではありません。昨今、いのちの大切さということがよく言われていますが、いのちは現に生きているものだけのものではない、まして人間のためだけのものではない、ということを考えてみる、これも孟蘭盆会の大切な意義なのです。



浄泉寺花まつりに



今年の浄泉寺降誕会（お釈迦様の誕生を祝う行事「花まつり」）は、去る四月七日（日）午後二時から開催されました。

住職の挨拶や降誕会の由来の話した後、お釈迦様のご誕生を祝う法要が執り行われ、参加者全員が「誕生佛」（花御堂に飾られたお釈迦様のご誕生時の尊像）に甘茶をかけ、お祝いをしました。



降誕会の由来等話す住職



鈴木宗峰氏



山内彩艶さん



吉岡一正氏



鈴木涼旺さん



江川信風氏

法要後のお楽しみイベントは、町内で活動する尺八奏者のお二人（江川信風氏と鈴木宗峰氏）と詩吟の五名の方々に出演をお願いしました。

先ず第一部は、鈴木宗峰氏の尺八演奏です。さくらさくらや春の海など春らしい曲を聴かせていただきました。

第二部は、詩歌吟詠です。

「寒梅」 鈴木涼旺さん
「名槍日本号」 吉岡一正氏
「雨ニモ負ケズ」 齋藤岳倉氏
「春夜洛城にて笛を聞く」 山内彩艶さん

「太田道灌を借りるの図」 松本涼岳氏
の方々が次々と自慢の喉をご披露くださいました。

第三部は、江川信風氏の尺八演奏です。ムーンライト・セレナーデ、川の流れるようにや涙そうそうなどでした、最後にオリジナル曲「印旛の伝説」もご披露くださいました。



松本涼岳さん

お盆の迎えかた

お盆は、一年に一度、八月に、その家のご先祖をお迎えして十分な供養をする時です。地方により、またその家の習慣により、その迎え方は異なりますが、その一例を紹介いたします。

八月十三日の夕方、家の門口でオガラ（皮をはいだ麻の茎）を焚いて精霊（祖霊）を迎える風習や、お墓参りをし、墓前で火を焚いて先祖の霊を迎える習慣があります。これらを「迎え火」といいます。

十四日、精霊はその家に留まるとされ、仏壇や精霊棚、また墓前に灯明や灯籠をともすのは、万灯の一つとして精霊に供養する意味があります。

十五日の夕べ（または翌早朝）ご先祖様はその家を去るといわれておるところから「仏送り」ともいい、「送り火」を焚き、お供えをし、灯籠を流したり、水辺の無縁の霊に施しをする習慣があります。

しかし昨今では、河水を汚すのを避けるため、供物を河に流さず適宜処分するようです。

浄泉寺大施食会と 柵経のお知らせ

柵経のたなごよう

◎ 施食会 八月十七日（土）
午前九時から

当寺本堂でお勤めします。

施食会は、もとは施餓鬼といっておりますが、現在曹洞宗では、人権の見地から「施食会」と呼ぶようになっております。近年は新盆を迎える方の参加が大半であります。この施食会は、縁のある無しを問わず、広く諸精霊に飲食を施す法会です。他のためにする供養は、自身に積む善徳となります。施食会での、ご先祖様の卒塔婆供養をお勧めいたします。供養料は、一本三千円です。

◎ 柵経

八月十三日（火）

午前 伊篠・飯仲地区
午後 中央台・東酒々

井・その他酒々
井・佐倉地区

八月十四日（水）

午前 並木町・飯田町
成田ニュータウン地区

午後 富里地区

八月十五日（木）

午前 その他地区

※ 不在の方は、必ずご連絡をお願いいたします。原則として日程の変更は、お受けできません。この日程で不都合の方につきましては、昨年度より八月十三日から十五日までの毎日午後五時より当寺本堂にて、合同でご供養いたします。午後四三十分までに、お越しの上お申し込みください。

・ 供養料 三千円以上

・ 卒塔婆つき供養料 五千円以上

※ 卒塔婆つき供養の場合は、当日申し込みはできません。

◎ 新盆について

今年新盆を迎えるのは、

平成二十四年七月より

平成二十五年六月までに逝去された方です。

（お盆までに四十九日忌を終えられた霊位です。）

◎ 新盆柵経

八月十一日（日）

※ 対象となるご家庭には、別途詳しくご案内申し上げます。

御霊おくり 万燈会

お盆の行事として、各地の寺院で万燈会が営まれます。万燈会には仏さまにたくさんの燈明を供え、滅罪生善や諸願成就を祈願する行事です。

日本では天平十六年（七四四）十二月、東大寺で一燈灯をともし、数千の僧侶が大仏の前を巡って供養したのが起源といわれています。

万燈会がお盆の行事となったのは、文治二年（一一八六）七月十五日、平家の滅亡を弔うため始められたそうです。今年も浄泉寺では境内や墓地に数百の明かりを燈し、各家のご先祖様の御霊をお送りし、万燈会のご供養を行います。

またイベントでは、例年とは趣向を変えて、怪談話を得意とする落語家の桂夏丸さんをお招きする予定です。是非、お越し下さい。特に、浄泉寺にお墓のある方は時間を併せてご先祖様を送り、お帰りにお立ち寄りください。

日時 平成25年8月15日（木）
午後7時から8時まで

受付 午後6時30分から
場所 浄泉寺 本堂内
イス席 約80席

入場 無料

※ 予約は、不要ですが、イス席をご希望の方は、事前にお申込ください。本堂に入りきれない場合は入場制限があります。

桂 夏丸さんプロフィール

昭和五十九年 群馬県吾妻郡出身、県立渋川青翠高校に嫌々通い、後に卒業。平成十五年三月桂幸丸に入門 夏丸を拝名。平成十九年九月二ツ目昇進。平成二十五年二月 第二十三回北とびあ若手落語家競演会で奨励賞を受賞。得意とする囃しは、怪談噺、相撲噺、不思議噺などだそうです。

当日は、本堂の灯りを落とし、得意の怪談噺の中から三遊亭圓朝作『鏡ヶ池探松影より』江島屋怪談』を聴かせていただきます。



桂 夏丸さん



本堂仏具の奉納

浄泉寺報第九号で皆様にご協力をお願いしました本堂仏具のご奉納ですが、早速卒塔婆立と小鑿子台（小さな鐘を載せる檜製の台）の二点について、ご奉納の申し出を頂きました。

仏具の納入に合せご奉納いただきました御家の先祖供養をさせていただきます。大変有難うございました。

卒塔婆立

奉納者 成田市飯田町

清宮あい子様



清宮家ご長男 清宮 優 様

小鑿子台
奉納者 酒々井町東酒々井
吉松 節子様



吉松 節子 様

お二人とも亡くなられたご主人様の菩提を弔うためご奉納いただきました。

浄泉寺本堂内の仏具の整備については、本堂内陣内の灯籠一對の台座の方の篤志の方をお待ちしております。なお、大勢の皆様のご合同でのご奉納も可能ですので、金額を問いませんのでお心のある方は、ご協力をお願い申し上げます。

灯籠台座

一対約七十万円



墓地利用者の皆様へ

墓苑利用者の皆様に幾つかお願い申し上げます。最近特に墓地内においてカラスによるいたずらが目につきます。ごみ入れを荒らすことはもとより、各墓所の花立から生花を抜き取って、あたりに散乱させるのが一番困ります。せつかくの供養の花が無残に散らかっているとても悲しくなります。また最近常花をお供えされている方もありますが、常花は散乱しますと、どこのお墓のものか分かりづらく、そのままゴミになってしまふことがあります。常花をお供えする場合は、所有が分かるようにされるか、簡単に抜けないような工夫をお願いします。また、供えられたペットボトルや缶類もいたずらしているようです。できましたら、お参り後できるだけお下げくださるようお願いいたします。更に掃除用具もいたずらの対象になっており、これも散乱が目につきます。ご面倒でもなるべくお掃除の都度お持ちいただきますようお願いいたします。 住職

仏教豆知識

仏具の功德

仏具とは、仏様にお供えするために、僧や檀信徒が仏前に用いる道具や荘嚴物です。仏様への供養は、昔から、香・華・灯の三種の供養を基本とし、また飲食を供える供養の道具があります。その他、法会に用いる法具や梵音具、僧が用いる僧具など、数多くの種類があります。

その中でも灯明を供えるための燭台、お花を供えるための華瓶、お香を焚くための香炉がもつとも基本となります。供養のための道具は供を資け道を進める器であるといわれ、その勝れたご利益は供物にも等しいとされています。もし人が、香炉や燭台などの器皿を施せば、十種の功德があると、あるお経（『業報差別経』二十三）に説かれています。それによれば、
一、世にあつては器のように役立つ。
二、善い法が器に満ちるように増える。

- 三、もろもろの渴愛を離れることができる。
 - 四、咽が渴いて水が欲しいと思ふとき、流泉が湧き出る。
 - 五、苦しみを受ける世界に生れない。
 - 六、天の妙なる器を得る。
 - 七、悪い友から離れることができる。
 - 八、大いなる福報をそなえる。
 - 九、命を終えて天に生ずる。
 - 十、すみやかに涅槃をさとるとあります。
- ですから、仏具・法具を家庭の仏壇に備えること、また寺院に寄進することは、とても勝れた功德となるのです。

やすらぎは ご先祖の供養から

- 一 周 忌 平成二十四年
- 三 回 忌 平成二十三年
- 七 回 忌 平成十九年
- 十三 回 忌 平成十三年
- 十七 回 忌 平成九年
- 二十三 回 忌 平成三年
- 二十五 回 忌 平成元年
- 二十七 回 忌 昭和六十二年
- 三十三 回 忌 昭和五十六年